

次世代型飲食ビジネスソリューション

## Food business DX

## 背景にある社会課題

新型コロナウイルス感染症の影響により、飲食業界は非接触のオーダーや決済への対応、デリバリーサービスへの参入など、大きな転換を迫られました。また、労働人口の減少に伴う人手不足も、深刻な課題となっています。そうした環境変化の中で、飲食業界ではDXを活用した変革意欲が高まっています。機械の導入によるオーダーや決済のセルフ化をはじめ、デリバリー、モバイルオーダー、ドライブスルーなどの多様化する利用客ニーズへの対応、さらに効率的な集客方法や客単価の向上などの課題を解決に導くソリューションが求められています。

## Voice

人手不足に悩む飲食店において、“いかに接客スタッフを減らし、かつ利用客に満足してもらえる顧客体験を提供できるか”は重要な課題です。そこで、セルフオーダーキオスクをはじめとするソリューションを提案し、幅広い形態のお客さまからのお問い合わせやご依頼をいただいています。当社の提案は、BUYZOとのデータ連携、レジつり銭機や入金機、顔認証システムなども組み合わせることによって飲食店の運用全体をコーディネートできる点が強みです。コロナ禍が終息し、飲食店の経営環境が変わる中で、多くのお客さまからグローリーが次世代飲食店を創り上げていくうえでのパートナーに選ばれるよう、広い視野で、かつスピード感を持った営業活動を展開していきます。



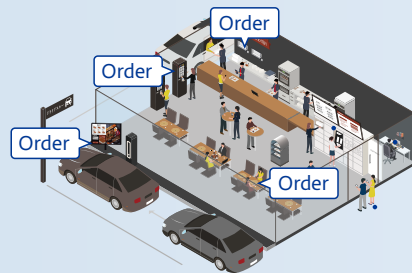
グローリー株式会社  
国内カンパニー 営業本部  
DXビジネス推進統括部  
DXビジネス推進部  
小尾 亮介

## 解決策

当社は、飲食店において注文から決済、店舗分析や集客施策の提案までを、トータルで解決するソリューションを提供しています。

Acrelec社と共同開発したセルフオーダーキオスク「FGKシリーズ」は、オーダー・決済業務のセルフ化を実現するとともに、利用客の属性に合わせた最適なオプションメニューを提案することで、客単価の向上に貢献します。着席後の注文では、テーブルオーダーシステムの「O:der Table®」、テイクアウトでの活用も可能なモバイルオーダーシステム「O:der ToGo®」などのソリューションと組み合わせることで、店舗運営を効率化し、利用客の幅広いニーズに応えることが可能です。

当社グループは、飲食店向けにつり銭機や券売機を単体で販売するだけではなく、IoTサービスと組み合わせたソリューションとして提供できる点、そしてコロナ禍を理由に郊外へと出店地域を変えた飲食店向けにドライブスルーに対応したソリューションも提供している点などが大きな差異化要因となっており、お客さまから高い評価を得ています。



## インパクト

## 社会的インパクト

- 利用客自身で商品のオーダーや決済をすることで、店舗業務の効率化を実現
- 現金、クレジットカード、電子マネー、QRコードなどの多様な決済手段及び多言語への対応で、会計業務のセルフ化を実現
- 収集データを店舗の現状把握や施策の効果測定、競合調査に活用することで、集客力向上に効果を発揮

## 当社グループへの経済的インパクト

- 全国に展開するレストランチェーン約5万店に向けたFood-DXの導入を提案中
- 飲食店の課題解決に直結するソリューションの提供を通じた収益の拡大を見込む

## 事業機会の創出

セルフオーダーキオスクやモバイルオーダープラットフォームに加え、今後は、飲食・小売業界でのさらなる事業機会の獲得に向けて、データマネジメントプラットフォーム(DMP)を活用し、集客・創客・販売促進の支援といった新たな価値をお客さまに提供していきます。データ活用サービス「BUYZO(バイゾー)」は、これまで利用客の行動や嗜好の把握が難しかったリアル店舗において、店舗に設置するAI Beacon<sup>(※)</sup>が利用客のスマートフォンから収集するオフラインデータとセルフオーダーキオスクやつり銭機等から収集・蓄積する購買データなどのオンラインデータを合わせて分析することで、お客さまにとって有効な施策をご提案するソリューションです。「BUYZO」の活用で、利用客の嗜好に合うクーポンやWeb広告をアプリ等へ配信する取り組みが始まっています。リアル店舗での顧客満足度向上や業務フロー改善のための分析サービスが、グローリーの新たな収益源となるよう注力していきます。

※AI Beaconとは、2020年5月に資本業務提携を行った株式会社アドインテが独自開発するWi-FiセンサーとiBeaconが一体となったIoTセンサーのこと。

BUYZO

Food business DX